

科目名称：	障害児保育演習Ⅱ	
担当者名：	中村 明成、小西 ふみ子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
障害児保育を理解する上で不可欠な子どもの発達理解（生物学的、環境的、順序性など）を深めると主に、障害特性への理解を進めていく。インターンシップ（現場参加）での子どものケースの理解から、関連する担当者、担当機関なども理解し、子ども、保護者、家庭を支えるための幅広い支援を知り、その中で保育者がどのような役割を果たしているかを理解する。		
授業の達成目標・到達目標		
現場参加でのカンファレンスの内容を把握する。現場の保育者ともミーティングを実施し、学生同士がよく意見を出し合う。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)			100		100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》（中村）障害者支援施設支援員 社会福祉士 ケアマネージャー	《経験年数1》 11年10か月
	《内容2》（小西）保育士	《経験年数2》 42年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
事例研究討議	他の事例についてよく理解し、質問をしながら、子どもの行動の意味を理解している	他の事例についてよく理解し、子どもの行動の意味を理解しようとする姿勢がある	他の事例について、子どもの行動について考えてる	他の事例についての理解が不十分である
ミュージックケア体験レポート	ミュージックケアの意義をよく理解し、今後自らの実践にも活かそうとしている	ミュージックケアの意義をよく理解している	ミュージックケアの体験を通して、子どもについて考えることができる	ミュージックケアの意義を理解することが不十分である

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーションと学習の進め方	シラバスを読んでおく	30分
第2回 障害児保育での療育の実際	前期演習Ⅰでの「療育」の理解を振り返る	30分
第3回 ミュージックケアの参加体験	ミュージックケアの文献調べ	30分
第4回 体験のまとめと討議(グループディスカッション)(レポート提出)	体験レポート作成	45分
第5回 障害児保育の保育計画の実際	前期「演習Ⅰ」での「現場参加の内容」の復習をしておく	30分
第6回 障害児保育の保育計画の実際	前期「演習Ⅰ」での「現場参加の内容」の復習をしておく	30分
第7回 関係機関の理解(市町村窓口、児童相談所)	「障害児保育Ⅰ」での「関係機関」を振り返る	30分
第8回 関係機関の理解(医療機関)	「障害児保育Ⅰ」での「関係機関」を振り返る	30分
第9回 関係機関の理解(保健所など)	「障害児保育Ⅰ」での「関係機関」を振り返る	30分
第10回 関係機関の理解(通園施設など療育施設)	「障害児保育Ⅰ」での「関係機関」を振り返る	30分
第11回 事例研究のガイダンス	前期と後期の現場参加での記録のまとめ	45分
第12回 事例研究討議(ディスカッションを2グループ合わせて、教員と実施)	前期と後期の現場参加での記録のまとめ	45分
第13回 事例研究討議(ディスカッションを2グループ合わせて、教員と実施)	前期と後期の現場参加での記録のまとめ	45分
第14回 成果発表会ポスターセッション作成(プレゼンテーション)	ポスターセッション用原稿作成	60分
第15回 成果発表会(プレゼンテーション)	ポスターセッション用原稿作成	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、現場参加での記録の整理を、学生同士が協働して取り組む。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
主に現場参加の記録整理と、学生同士で協働して取り組む姿勢・内容を評価する。(100%)

課題に対するフィードバック

事例研究討議には教員も参加し、積極的な発言を促す。また違う意見、様々な視点からの意見・質問を促し、カンファレンスの重要性についても理解する。

教科書・参考書

適宜、資料を配布する。